

P2-2

院内がん登録を活用した看取り場所に関する現状調査



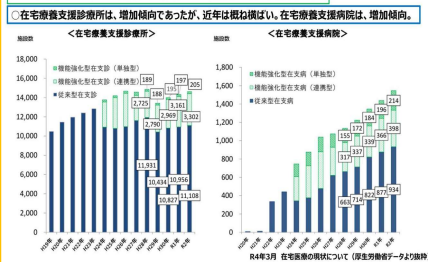
兵庫県立がんセンター 診療情報管理室
山口 真理子、鈴木 知志、西尾 渉

【はじめに】

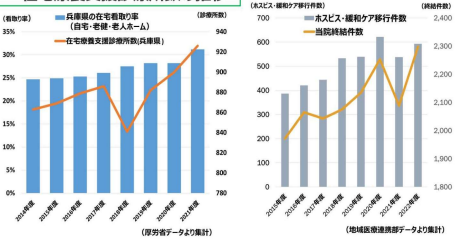
2017年に厚生労働省が行った「人生の最終段階における医療に関する意識調査」では、末期がん[※]と診断され最期を迎えたい場所として「自宅」と回答した国民は、69.2%と最も高く、「病院などの医療施設」が18.8%となっている。2018年4月の地域医療構想では、がん患者の在宅での看取りが推進されるようになり、兵庫県でも在宅で看取りを行っている在宅療養支援病院・診療所数は年々増加し、在宅看取り率は2019年28.2%で、全国の平均在宅看取り率25.2%を上回り年々増加傾向にある。当院のがん患者の看取り場所を把握することは、がん患者の意向を踏まえた在宅看取りを理解するためにも重要と考える。

※末期がん＝状態悪化し痛みはなく呼吸が苦しい状態で食事や着替え、トイレなどの身の回り手助けが必要であっても意識や判断力は健康な時と同様に保たれている状態

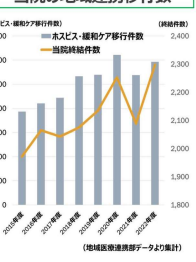
全国の在宅療養支援診療所・病院の届出数の推移



兵庫県の在宅看取り率と在宅療養支援診療所数の推移



当院の地域連携移行数



【目的】

国民の意向に沿って在宅での看取りが推進されるようになってきているが、当院でのがん患者はどこで亡くなっているのか死亡（看取り）場所の傾向を明らかにする。

【方法】

過去10年（2013年1月1日～2022年12月31日）の院内がん登録情報から死亡者10,933名を対象とし、患者の死亡年別に死亡（看取り）場所を集計した。死亡（看取り）場所は、①自施設死亡 ②他施設死亡 ③自宅死亡 ④他場所死亡 ⑤死亡場所不明（住民票照会など）に分類し年次推移で比較した。

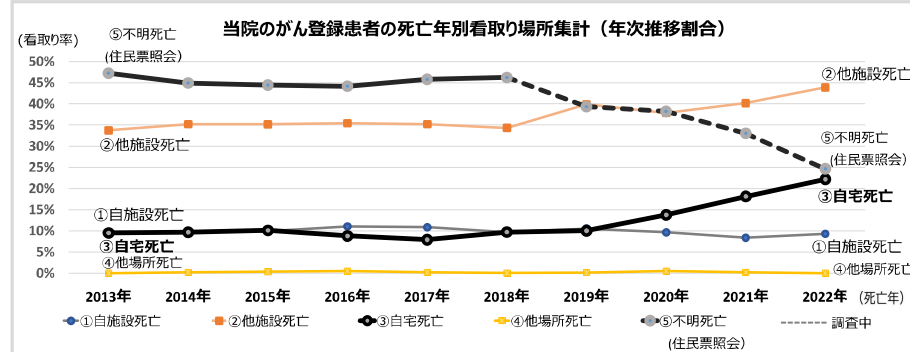
【結果】

①自施設死亡患者は、2017年134名であったが、新型コロナウイルスの感染が蔓延した2020年以降減少し2021年は69名であった。②他施設死亡患者は、①自施設死亡患者の3.1～4.8倍で増加傾向であった。③自宅死亡患者は、2017年98名であったが、2019年以降、年々増加し2022年は174名であった。④他場所死亡は、少数（1%未満）⑤死亡場所不明は、全体の47～25%であった。

死亡年別死亡看取り場所調査結果（2023年12月25日現在）

がん登録システムより集計
※他場所死亡数は、個人が特定されない「1～3」「4～6」と表示

死亡年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
①自施設死亡	123	122	119	132	134	106	113	95	69	73
②他施設死亡	446	433	420	422	435	377	426	373	330	344
③自宅死亡	126	119	121	105	98	107	107	136	149	174
④他場所死亡	0	1～3 [※]	4～6 [※]	4～6 [※]	1～3 [※]	1～3 [※]	1～3 [※]	4～6 [※]	1～3 [※]	0
⑤不明死亡（住民票照会）	625	553	531	526	566	508	420	377	271	193
年間死亡合計	1,323	1,230	1,195	1,191	1,236	1,099	1,068	986	821	784



※上記の内訳は、地域連携・医師からの情報提供が大半である。生存確認調査調査（住民票照会）では、死亡場所情報が得られない。

【考察】

厚生労働省は、2019年以降病院死が減り自宅死が増えている背景には、長引くコロナ禍で病院や高齢者施設での面会制限が続く中、人生の最終段階を自宅で過ごす人が増えている事などが影響していると公表しており、2020年以降の自施設死の減少や自宅死の増加傾向は、コロナ禍の影響もあるが、初診時より患者の意向を尊重した医療・地域連携の関わり成果と看取りを受け入れられる病院が増えてきたことが要因と考えられる。

今回の調査結果では、不明死亡の割合が高かった。当院の生存確認調査（住民票照会）は、死亡場所の情報提供が得られないため、看取り場所を明らかにするためには、死亡（看取り）場所の情報提供が必要である。

【結論】

院内がん登録データを活用することにより、当院における終末期患者の看取り先の傾向を明らかにすることができた。看取り場所をさらに明らかにするためには、全国がん登録からの死亡（看取り）場所の情報提供が望まれる。

【日本がん登録協議会 第33回学術集会 COI開示】

当演題発表に関して、開示すべきCOIはありません。（筆頭演者名：兵庫県立がんセンター 山口 真理子）